

令和6年度第1回磯町高齢者福祉計画策定等委員会 議事録要旨

1 開会

2 議題

(1) 第九期大磯町高齢者福祉計画介護保険事業計画の進捗状況について

事務局説明 資料1、資料2、資料3に基づき説明

委員長 ただいまの事務局の説明にご質問のある方は、いらっしゃいますか。

委員 資料1の方で確認をさせていただきたいと思いますが、第九期の1月末時点の人口が3万669人ということで、これは今後の推移としては、現人口減少がここから進んでいくというふうに、見るべきものなののでしょうか。人口は減ってはいるんですが、例えば6年度で下がって、さらに下がるという状況を考えると、第十期以降も含めて、これはこの3万669人というのがマックスで人口減少数に進んでいくのかなというような推移でしょうか。

事務局 将来的には人口減少の傾向になってくるというのが現状です。

委員長 他に何かありますか。

委員 資料1で、高齢化率がありますが、これから高齢化も進んでいくと言われてはいますが、実際見ると変わらないようなのですが、母数である高齢者人口が、それほど増えるのかというのがあります。もちろん増えてはいくのですけど。

資料1の高齢化率の実際の実数のところご覧いただくと、高齢者人口の2023年9月末が11,146人、今年6月末の数値で11,092人。高齢者人口は減っています。今後、お年寄りも増えるのですが、高齢者人口、高齢化率は大きな変化はなく、横ばいですね。

事務局 簡単にご説明させていただきます。

もうすでに団塊の世代というのが、75歳に到達をしております。やはり、高齢者の中でも後期高齢者は増えているというような状況ですが、もうすでにピークに達したところがございます。65歳に達する年齢の人口減少が始まっていますので、実際は亡くなられる方と65歳に到達する方で、人数の逆転現象が起こり始めております。今社会現象の中で心配されているのが、多くの方が亡くなる時代が来るといような点ですが、実際は大磯町の中の高齢者数は、一時期は横ばいにはなるとは思います。徐々に減少していきますが、若者の年代が少ないので、高齢化率っていうのはあまり変わらない。分母が小さくなりますので、高齢者自体が減っても、全体の中での割合はあまり変わらない、支える側の問題も同じように減っている状態が続いているという現象が起きています。そのため、自然増というのがなかなか難しい中で、社会的な増を増やしていこうと、今、町としては取り組んでいます。そこも年代によってだんだん当然見直しをしますので、あまり全体の中での割合は変わらないで推移するというのが現状としての予測になっています。

委員長 他にありますか。

委員 資料3の3ページの、総合事業のところの3番の介護予防ケアマネジメント、この、令和4年から令和5年の伸び率、こちらがマイナス7%。資料3の1ページ目の12番の介護予防支援の6%増、これはどう解釈したらいいですか。

事務局 その資料から単純に読み取ると、片方を受けているということです。これはもう、チェックして支援を受けている状態だと考えられます。おそらく総合事業と介護予防なので、その差があります。

委員長 他にありますか。

委員 資料2の、実数のところを見たところ、要支援の人と要介護1から5の人の割合の推移はどうなのでしょう。トータルで見ると、合計は増えてきています。ただ支援の人と介護、介護度が高くなっている人が増えていくのかとか、支援だけで留まっている人がいるのかとか、その辺のパーセンテージから見えてくると。町の考察はどうなのかなって思いました。そのあたりを教えてください。

事務局 2024年7月時点でみますと、認定の要支援割合と要介護割合は、全体2041人に対して、要支援は約30%で、要介護の割合は70%。本計画における2024年6月の第九期のところでも、要支援が30%で、要介護は70%という割合で、概ね変わりありません。2023年5月末と比べても、大きな変動はないようです。

委員長 他にありますか。

委員 介護度が高い人が増えているとか、そういうことですか。介護度の4、5が増えたとか、そういうことはないですか。ちょっとしたその数字のマジックがあるように思うのですが。実績の部分でいくと、大体220ぐらいを推移している感じです。医療介護でも、160から165から170の間で推移している感じですね。大きな変動は数字的には無いですね、患者さんを見させていただいて、感覚からいうと、介護度が重い人が増えてきたなっていう感じがありますが、パーセントで出すとそこまでではないという、先ほどもお伝えしたように、団塊の世代の方が75歳に到達されて、やっぱり要介護の4とか5と、どうしても年齢が高くなってからってということになりますので、この先の10年後、今75歳に到達した方が85歳になる頃に、その年代のピークが来るので、その頃はもしかすると、介護度の高い方が一時期、跳ねあがる可能性っていうのがあるのではないかと。そうすると余談ですが、かなりサービスを受ける方が増えていくことになり、町の事業所は大変になるのではないのでしょうか。そのあたりのパーセントが知りたいと思いました。

事務局 この他に何か質問がありましたら、事務局までお問合せください。

委員長 事務局からその他について何かあればお願いします。

3 その他

事務局 本日は第1回目ということで、次回の2回目は、来年の1月の中旬から2月の中旬頃を予定しております。今日、出席の委員の皆様、不都合の時期があれば、教えていただければと思います。

事務局 本日は第1回目ということで、次回の2回目は、来年の1月の中旬から2月の中旬頃を予定しています。今日、出席の委員の皆様、不都合の時期があれば、教えていただければと思います。

委員長 内容はどんなものになりますか。

事務局 次の7年度に向けた予算概要と7年度に向けた計画に対する短期の状況です。

委員長 今、事務局の方から、会議開催にご都合の悪いようなことありますか。曜日であれば、もう少し曜日をあげて欲しいということがあれば、今日この場で、おっしゃってください。

委員 別件ですが、先ほどの高齢化率云々でお話になってその中に、事業には相当支援の必要が出てきますよね。確かにケアマネは減少していますが、というより、現場で働く人たち全体の減少で、いろんなところでお願いをしているのですが。80歳近い方が、介護職に行かれて、またいい仕事をしています。ということは、基本は在宅だと思います。それから施設で、何かあればまた在宅に戻されます。デイサービス段階はみんな在宅です。そうすると、ヘルパーの人の人員不足で確認できないというのが、本当に日常的にあります。そういう場合、町として、この現象をどのようにとらえるのかということと、町として、この現状、今後の将来に向かっての、施策等を何か考えていただいているのでしょうか。

事務局 そういう人材関係の確保とか、補助的な部分については、計画を策定していただくときに、やっぱり人材の育成のところをやらなきゃいけないというご意見いただいて、計画上に入れさせていただきました。計画の102ページのところに入れさせていただいています。定着に関しては、町が予算措置をしていかなければいけないということで、昨年の計画策定のときに皆さんから意見をいただいており、計画の中でも位置付けをさせていただいていますので、引き続きやっていかなければいけないと思います。ここで始めて、うまくいくのか、うまくいかなければ別のやり方とか、どうするのかというのを検証しながら、ローリングしながら、人材育成確保をやっていかなければと考えております。課題としてとらえて、計画上の位置付けをさせてもらい、予算も対応させていきます。

委員 具体的にシルバーさんとか、そういう方々の連携というのもすごく大事です。町の中にはいろいろな組織がありますよね。今は専業主婦の方が本当に少なく、何かしらのお仕事をされている人がほとんどなので。でもその中でも、ちょっと時間を使っていたけるとよいのですが。ヘルパーとして在宅訪問など。

事務局 町でも調査員を探すときに、なかなか見つからなかったのですが、幼稚園の保護者さんにチラシを作って声かけをしてみたら、1週間に1回だけ、半日だけだったら働けますとかっていう方が複数出てきたんですね。なので、そういった方が、お子さんが大きくなってから、その仕事をもう少しボリュームを増やしていけるとか、可能性も考えていく必要があると思います。「実は資格は持っているのだけど」、「一旦仕事から離れたんですけど」、「幼稚園に行っている時間だけ」、「1週間に1回ぐらいだったら働けるんですね」という人が実はいるということの気づきもありました。そういうところに少

しアプローチをしていく必要があるかなと思っています。働きかけとか、あとは、保育士さんなんかでもよくありますが、職場体験みたいなものに事業者の方々にもご協力をいただいて、介護の仕事がどういうものなのかというのを知っていただく機会つくって、なかなか伝わらないのかなっていう危惧もありますので、またそこはお知恵いただければと思います。

委員 その通りだと思います。これは現実の話で恐縮ですが、ヘルパーの初任者研修をうけてどこかの事務所に勤めたところ、そこで、利用者宅に伺って嫌な思いをして「やってやんねえぞ」という人も結構いらして、それで、他の職員につくっていうとその、ヘルパーさんの仕事に対する思いはとても厳しいので、であるならば、「スーパーとかで仕事をするのが気楽だよ」とていうような声もいっぱい聞こえてきます。確かに神経を使うのだけれどもそうじゃない喜びもたくさんあるんだよっていうところを、なんかこう研修会とか実態とかで、体感していただけるとよいと思います。企画を作っていて、底辺から広めていただくことによって、高齢者の地域での関わり合いを自然に持っていけるとするんですね。なので、幼稚園の若いお母さん、お母さんだけじゃなく、ぜひ、よろしくお願いします。協力します。例えば資格取得等に結構費用がかかりますよね。その費用が、ネックなことはあります。補助金が必要です。介護はとてもいい仕事です。人との関わり合いがあって感激を受けたり、応援してくれる方もいます。やはり人材育成が大切です。

事務局 アンケートの結果は今後事務局で分析をしていく予定です。もし皆さんが気づきの点を事務局へ伝えていただければ、今後の委員会の時にはそれを反映し、皆さんと共有できると思います。前回より全体的なアンケート回収率は上がっていますが、壮年層の回収率は下がっています。この層は以前より回収率が低いのですが、だからといってアンケートをやめるのではなく、今後「我が事」になっていくこの年代に対する働きかけをするという意味でも、続けていく必要があると思います。

委員長 では、本日は以上で閉会いたします。

4 閉会

以 上